

G8環境大臣会合

今年5月24日～26日、神戸で「G8環境大臣会合」が開催されます。今回はこの国際会議の意義や、「環境にやさしい」会議とするための工夫などについてご紹介します。

Q 1
そもそも「G8環境大臣会合」ってなに？

今年7月、北海道の洞爺湖で主要国首脳会議（G8サミット）が開かれます。この「G8環境大臣会合」は、北海道洞爺湖サミットに先立って、G8各国と欧州委員会（EUの行政執行機関。EUの実務的な役割を果たす）の環境担当閣僚が一堂に会し、主な環境問題について意見交換を行うもので、ほぼ毎年1回、サミット議長国の主催で開かれています。今年には日本がサミット議長国であり、北海道洞爺湖サミットでは、環境問題が主な議題の一つとして、大きく取り上げられる予定です。ですから、その前に開かれるこの会合の役割は特に重要なものとなるのです。

Q 2
どんな環境問題が議題になるの？

まずは、気候変動について。2007年に開かれたハイリゲンダム・サミットで日本は「美しい星50」という提案を行い、その結果「2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出量を少なくとも半減することなどを真剣に検討する」ことが合意されました。今回の会議ではこの合意をさらに進め、温暖化防止策としてどんな方法が有効か、議論を行う予定です。

次に、生物多様性について。生物多様性は、すべての生物の生存基盤であり、人類の繁栄にとってなくてはならないものです。日本は「生物多様性2010年目標」の目標年であり、「国際生物多様性年」でもある2010年に開催される「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」の誘致を目指しています。この節目の年に向けて、果たしてどのような取り組みを推

進すべきか、議論を行う予定です。そして、3R。2004年のシアラランドサミットでは、日本の提案により、廃棄物の発生抑制（Reduce）、再利用（Reuse）、再生利用（Recycle）の3つのRを通じて循環型社会の構築を目指す「3Rイニシアティブ」が合意されました。このイニシアティブのさらなる展開についても議論を行う予定です。



Q 3
会議の特徴は？

地球環境問題の解決には、世界全体としての取り組みを進めていかなければなりません。最近のG8関連会合では、G8各国のみならず、アジアの新興国、途上国をはじめとするさまざまな国や、国際機関の代表なども参加して、幅広い意見交換が行われるのが特徴です。

また、閣僚や政府間にとどまらず、NGO/NPO、産業界といったさまざまな関係主体（ステークホルダー）との交流を重視していることも、環境大臣会合ならではの特色です。本会合でも、環境大臣とステークホルダーとの意見交換会が予定されています。

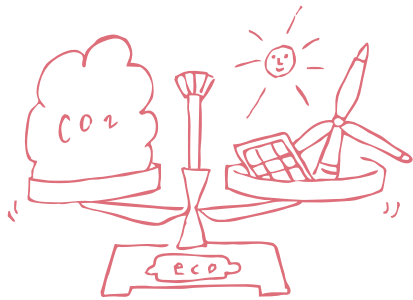
Q 4
会議開催にあたって、なにか「環境にやさしい」工夫はあるの？

会場までの送迎などに使われる車両を低公害車にしたり、リサイクル製品を利用するなど、できるだけ会議開催による環境への負荷を低減し、「徹底的に環境にやさしい」会議を目指しています。どうしても避けられない温室効果ガスの排出に関しては、「カーボン・オフセット」の仕組みを使います。カーボン・オフセットとは、まず排出削減努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量を別の削減事業などによって埋め合わせることをいいます。会議を機に、カーボン・オフセットの考え方が日本に定着することも期待しています。

過去のG8環境大臣会合

開催年月	開催地
2000年4月	滋賀県大津市
2001年3月	トリエステ（イタリア）
2002年4月	バンフ（カナダ）
2003年4月	パリ（フランス）
2005年3月	ダービーシャー（イギリス）
2005年3月	ロンドン（イギリス）
2007年3月	ポツダム（ドイツ）

*2004年、2006年は開催されず



イラストレーション/タニダリョーコ